

生活科

1 育成したい「思考力」

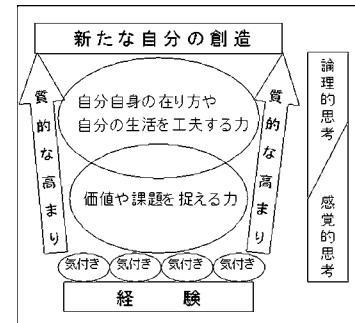
- a これまでの経験と結び付けながら、事象へのかかわり方についての価値や課題を捉える力
- b 具体的な活動の中で、これまでの経験や各教科の見方や考え方をを用いて、自分自身の在り方や自分の生活を工夫する力

生活科の学習は、事象（身近な人々・社会及び自然等）に直接働きかける活動を通して、気づきを質的に高め、子どもがこれから生活をしていく上での自立への基礎を養うことをめざしている。

ここで培いたい「思考力」は、経験することによって得られる様々な気づきを、新たな自分の創造に役立てられるよう、質的に高めることである。言い換えれば、気づきを自分自身の価値や課題として捉えたり、気づきを基に自分の在り方や生活を工夫したりする力のことである。

一方、この時期の子どもの発達段階では、抽象的な思考や筋道立てて論理的に考えることは難しい。子どもの「思考力」は、具体的な活動を通して、これまでの体験や知識と結び付けた実感的・感覚的な思考によることから始まり、徐々に論理的な思考に移行していく。

こうしたことから考えると、1年生から2年生への「思考力」の発展については、活動の繰り返し、活動の範囲や選択性の幅の拡大に伴って、「論理的思考」の割合が増えていくものと考えられる。



a 「事象へのかかわり方についての価値や課題を捉える力」とは

自分を取り巻く事象が自分自身にとってどのような意義があるのか、これまでの自分の経験を基にその価値を判断したり、今、解決しなければならない問題とは何かを捉えたりすることである。また、これまでのかかわりをもう一度見直し、これからどんなことをしたいのか等、新たな課題を見つける力である。

例えば、「たのしかったね 1ねんかん」の学習では、今と以前の自分を比較し、自分の成長を見つけ、カード等を書くという活動が展開される。本単元の「事象」とは、自分自身の一年間の成長をさす。この「事象へのかかわり方」とは、それをどう評価するかということであり、つまり、自己評価の在り様のことである。「これについての価値を捉える力」とは、結果にしか目が向かず、カードに何も書けないという子どもが、過程に目を向け、がんばったことも評価するという新たな価値を見出す力である。「課題を捉える力」とは、結果と過程に目を向けるという視点で、今後のめあてを設定できる力である。

b 「自分自身の在り方や自分の生活を工夫する力」とは

これまでの経験や各教科で学んだ見方や考え方をを用いて、課題解決に向けてよりよい方向を模索したり、やり直したりする等、これからの新たな働きかけを工夫する力である。

子どもたちは様々な問題に直面した時、これまでの自分の経験に照らし合わせて解決の方法を探ろうとする。問題解決に結びついた要因を探ったり、それらの要因が複数ある場合には比較したりして、「工夫の視点」としての思考様式を見出すのである。

また、各教科の見方や考え方をを用いて、自分の生活を工夫することも大切である。生活科が学びの対象とする事象の中には、算数的な要素を含んだ事象（時間や時刻、買い物等）や図画工作的な要素を含んだ事象（おもちゃづくり等）がある。こうした学習で学んだ見方や考え方をを用いることで自らの生活を見直したり、高めたりする「工夫の視点」を見出すことができる。

そして、自分が楽しかったことやうれしかったこと、分かったことや気付いたことを表現する際には、友達や家の人、年少者や高齢者等、伝える相手のことを意識して考える場を設ける。このことにより、国語科での学びを生かして相手に応じた表現方法の工夫を考えることができるようになる。

2 「思考力」を育成するための思考様式

(1) 思考様式の種類

	見つける	比べる	たとえる
a 価値や課題を捉える力	<p>1年「あそびばへいこう」 にこにこ顔になるような道の工夫を考えると、まず物に着目し、次に人に着目すればよい。</p> <p>1年「たのしかったね1ねんかん」 がんばったことや励まされたことを思い出す。</p> <p>2年「教えてあげるよ、学校のこと」 1年生に学校のことを教える時は、自分の経験を思い出す。</p> <p>2年「レッツゴー!町たんけん」 インタビューすると、お気に入りのものにかかわっている人々の思いや願いが分かる。</p> <p>2年「レッツゴー!町たんけん」 発見したことの中から、仲間を見つける。</p>	<p>1年「がっこうをたんけんしよう」 誰のためかを考える。</p> <p>1年「がっこうをたんけんしよう」 地図と見比べる</p> <p>1年「きれいにさいてね アサガオさん」 置く場所を決める時には、友達の考えと比べる。</p> <p>2年「レッツゴー!町たんけん」 写真を選ぶ時には、一番伝えたいことを考えるとよい。</p>	
b 自分自身の在り方や生活を工夫する力	<p>1年「きれいにさいてね アサガオさん」 休日の水やりの仕方は、前もってできることを考える。</p> <p>2年「おいしくなってね、夏やさい」 失敗のわけを考える。</p>	<p>1年「きれいにさいてね アサガオさん」 大きさを変えてためしてみる。</p> <p>1年「だいすきだよ」 家庭で、仕事や団らんやイベントの実践を考える時は、うまくいった体験を通して気付いた工夫のこつを使うとよい。</p>	<p>1年「げんきにそだて」 ウサギやカメの世話をすると、ウサギやカメになったつもりで考える。</p>

※ これらの思考様式は、実践の一部であり、全てを掲載しているものではありません。

(2) 分類から明らかになったこと ～事象を見つめるための3要素～

これまでの実践で有効性が認められた思考様式を、生活科で育成したい「思考力」に基づいて分類した結果、思考様式設定に際して大切にしたい「視点」が見えてきた。

それは、「見つける」、「比べる」、「たとえる」という視点である。

① 「見つける」について

「何に視点を当てて見つけるのか」を明確にすることによって、事象へのかかわり方についての価値や課題が捉えやすくなる。例えば、2年「レッツゴー！町たんけん」の学習では、「インタビューすると、お気に入りのものにかかっている人々の思いや願いが分かる。」という思考様式を子どもたちに習得・活用させる。町探検をすると、子どもたちは「物」に関する情報に興味をもつが、「物」だけでは、自分とのかかわりは捉えきれない。そこで、インタビューするという学習活動で、「人」に視点を当てさせる。これによって、お気に入りの場所を支えている人々の苦労や工夫が見つけれられ、自分とのかかわりについての価値や課題を具体的に捉えられるようになる。

また、自分自身の在り方や自分の生活を工夫する力を育成する際にも、「見つける」思考様式は、有効に働く。例えば、1年「きれいにさいてね、アサガオさん」の学習では、「休日の水やりの仕方は、前もってできることを考える。」という思考様式が設定される。子どもたちのこれまでの経験や知っていること、自分の育てているアサガオの生育状態や休みの日の天気予報に視点を当て、継続可能で無理なく、休みの前日に用意しておける工夫を見つけていく。このように、視点をはっきりさせて水やりの仕方を考えることによって、自分の生活を工夫する力が育っていく。

② 「比べる」について

表中の「比べる」の欄の思考様式には、何と何を比べるのかという「比較の対象」を明確にするものと、相違点なのか共通点なのかという「比較の視点」を明確にするものがある。これらの思考様式によって、自分とのかかわり方についての価値や課題がはっきりと捉えられる。例えば、2年「レッツゴー！町たんけん」の学習では、「写真を選ぶ時には、一番伝えたいことを考えるとよい。」という思考様式を設定している。お気に入りの場所で撮影した複数の写真の中から、どの写真をどの順序で提示すると、一番伝えたいことがよく伝わるのかを比較検討していく。「一番伝えたいことは、お土産用のうどんも売っているという工夫だから、土産用ケースの写真を最後に提示したらよいのではないか。」等と考える。このように、複数の写真を比較する際、比較の対象を明確にすることによって、自分とお気に入りの場所やそこを支えている人々とのかかわり方についての価値を捉えていくのである。

また、1年「だいすきだよ」の学習では、「家庭で、仕事や団らんやイベントの実践を考える時は、うまくいった体験を通して気付いた工夫のこつを使うとよい。」という思考様式を設定している。家での仕事を体験し、気付いたこつの共通点を話し合いによって見出し、そのこつを使って、団らんや秋の家庭イベントの仕方を考えていく。このように、比較の視点を共通点に定め、共通点からこつを見出し、そのこつを他の場面でも生かそうとすることによって、自分の生活を工夫していくのである。

さらに、「比べる対象や視点を明確にする」という思考様式は、3年生から始まる理科での比較思考、社会科での比較類別思考につながるもので、それらの教科との関連も考えていきたい。

③ 「たとえる」について

事象とのかかわり方が捉えにくいものを、「人間みたい」と感覚的にたとえて捉えることによって、自分自身の在り方や、自分の生活を工夫していくことができる。アニミズムの発達段階の子どもたちにとっては、非常に有効な活動である。

例えば、1年「げんきにそだて」の学習では、「ウサギやカメの世話をする時は、ウサギやカメになったつもりで考える。」という思考様式が有効になる。「自分と同じでお腹がすくから、金曜日の帰りには、えさをたくさんあげて帰るとよい。」と、自分にたとえて考えることによって、自分の生活を工夫していくことができる。

なお、「たとえる」ことにより、事象へのかかわり方についての価値や課題を捉える思考様式も想定されるが、今後実践を通して明らかにしていきたいと考えている。